

群馬県

高山村





CONTENTS

特集 人形浄瑠璃「尻高人形」 3

小学校伝統芸能教室

道の駅「中山盆地」 5

高山村の農産物・物産が満載
高山村の観光情報を紹介
高山温泉ふれあいプラザ

写真で観る美しい自然 7

原風景をゆく「歴史の足跡」 11

史跡・文化財・祭り・伝統行事

高山村マップ 13

行政情報 15

自然と共に暮らすー生活環境の充実
農林業を基幹に観光で活性化
住民の実情に合わせた重点施策
村の個性を生かした「高山村一貫教育」



■地勢

本村は群馬県の北西部に位置し、東西11.34km、南北10.63km、総面積は64.16km²です。東は沼田市、南は渋川市、西は中之条町、北はみなかみ町に、おのおの接しています。また、南北に1,000m級の山々が連なり、村の中央を西の方へ名久田川が流れています。村内は、地形が異なる二つの地区、盆地状の中山地区と、傾斜地で中之条盆地の一部である尻高地区に分かれています。そのため耕作地も標高420mから700mまで幅広く分布しています。

◎高山村民憲章

四方を緑の山々に囲まれ、すばらしい大地に育まれた私たち高山村民は、永遠の平和と心豊かな生活を願い、のびゆく村民の自覚に基づき、ここにこの憲章を定めます。

- 一、私たちは身体をきたえ、働くことに誇りをもち、豊かな村をつくりましょう。
- 一、私たちは郷土を愛し、教養を高め、文化の香り高い村をつくりましょう。
- 一、私たちは老人を敬い、青少年の夢を育て互いに助け合い、福祉の村をつくりましょう。
- 一、私たちは花と緑を育て、公德心を養い、美しい環境の村をつくりましょう。
- 一、私たちはきまりを守り、笑顔で話し合える、あたたかい家庭と平和な村をつくりましょう。

■沿革

本村の黎明期は、古代にまでさかのぼります。その後、戦国時代には、交通の要所として各所に城が設けられ、城跡、合戦跡が今に残ります。近世になると、越後と江戸を結ぶ三国街道の宿場として、大いに賑わいました。江戸時代の宿場跡などから、当時の繁栄をしのぶことができます。繁栄は街道が廃止される明治初期まで続きましたが、その後、基幹産業を農業に切り替えました。明治22年、中山村と尻高村が合併して高山村になり、現在に至ります。

■村章

たかやまのたの字を図案化したもので、村の円満を象徴し、上部の山は飛躍し発展する高山村を表したものです。
昭和46年2月10日制定
村民公募入選作



村政要覧・発刊にあたって



高山村では、成人式を毎年お盆のふるさと祭りにあわせ8月15日に挙げています。それぞれ各地から故郷に戻り100%近く出席さ

れます。「田舎」とは幼少年期の懐かしい思い出がぎゅっと詰まった「ふるさと・原点」であると思います。都会育ちの人には味わえない温もりを感じます。都会にお住いの皆様田舎暮らしで、ふるさとを作ってはいかががでしょうか。

高山村は四方1100mほどの山々に囲まれた小さな盆地の村です。そこに広がる田園風景は「ふるさと」そのものです。

四季のうちで最もすばらしい春の原風景は訪れる皆様をきっとオゾンと共に癒しの自然へ案内いたします。また夏に於いても樹木間を縫って伝わる風は実に爽快です。初秋からは渡り蝶のアサギマダラが休息地として飛び交います。自然ばかりではなく、一般観望もできる県立ぐんま天文台をはじめ、県立北毛青少年自然の家、スコットランドから移築したロックハート城、道の駅中山盆地などの観光スポット、また4つのゴルフリゾート、緑の村キャンプ場、たかやま高原牧場など多くのお客様を迎えることが出来るようになりました。

これからも引き続き教育をはじめ産業、文化、福祉の振興等を図ると共に大きな課題である少子、高齢化、人口減少問題等に村民皆様と共に取組み、笑顔で輝く明るい村づくりを目指して参りたいと思います。

平成27年3月

高山村長 後藤幸三



「尻高人形」定期公演

人形芝居を伝承する古里

人形浄瑠璃は、三味線と情感豊かな物語に合わせ、演じる人形芝居で、発祥は古く、日本を代表する伝統芸能です。高山村の人形浄瑠璃「尻高人形」は貴重な伝統文化として、村人の熱意と努力で継承されてきました。

尻高の人々が人形浄瑠璃を行うようになったのは幕末から明治の初めと伝えられており、明治期に「豊松座」が結成され、盛んに上演されてきました。豊松座の中心人物であった与平が他界すると徐々に衰退し、昭和8年（1933）に中之条の古物商に道具類が売られてしまいました。村人は売った金額の倍以上を出して買い戻し、「錦松会」と改名し復興しました。

尻高人形は高さ50センチほどの人形を一人で動かす「一人遣い」で全国でも珍しく、左手を人形の背中に差し込み、頭を支える心串で眉・目・口、右手で2本の「差し金」を使い、人形の両手を動かします。

戦争中も年間に4、5回は上演され、戦後は昭和29年にNHKテレビで取り上げられて関心が高まりました。現在は、「尻高人形錦松会」として、頭31体、衣装約200点を保有しており、11演目を上演することができま

す。昭和30年（1955）に県指定重要無形民俗文化財、昭和53年（1978）に国選無形民俗文化財に指定されました。



錦松会座長 関亜刀美さん(豊松伝吉)

「豊松座」現在の活動

尻高人形芝居の上演は、村の文化祭、敬老会・研修会のアトラクション、民俗芸能発表会などでの公演活動を行っています。

昭和52年（1977年）から毎年2月に、中之条町の「金幸（きんこう）」で定期的に上演していましたが、平成10年（1998年）、西地区に「常設舞台」を備えた多目的施設が完成したのを契機に、平成11年度からは、毎年11月23日に、そこで定期公演を行うようになりました。

特集 旅の浄瑠璃師が伝授した技 「尻高人形」

時は幕末の頃。名古屋の人形芝居の一派「豊松流」の旅芸人・豊松伝三が大きな荷物を背負って尻高にやってきました。伝三は山田与平の家に泊まり、その晩、村の人々を集めて人形浄瑠璃を披露したといわれています。段々夫節に合わせて小さな人形が生命を持っているかのように演じている様子に村人は心を奪われ、一カ月もの間、熱心に人形の操り方を伝三に学びました。もともと尻高の人々は浄瑠璃で歌われる段々夫節を知っており、賞心は高かったので上達も早く、伝三にお願いで人形と衣装舞台一式を譲ってもらったのが、尻高人形芝居の始まりと伝えられています。伝三に由来するので別名「伝さん人形」とも呼ばれました。伝三が旅立った後も村人たちは練習を重ね、頼まれれば他村にも上演に出かけました。中でも一番若い与平は腕を上げ、明治19年（1886）に伝三から免許を与えられて「豊松伝次」と名乗り、村人とともに「豊松座」を結成しました。農閑期に人形芝居の稽古が始まると、みな、時間を忘れて働いたということです。

世代を超えてつながる高山の伝統

—高山小学校伝統芸能教室—

「伝統って何だろう？昔からあるもの？」。高山村では、子ども達が地域の伝統芸能「尻高人形」を毎年体験学習しています。この伝統芸能教室は平成11年度から始まりました。子ども達は、錦松会の人たちから人形芝居の指導を受け、夏休み中にも練習し、10月には全校生徒の前で6年生が上演。伝統的な演目を本格的に演じ、子ども達は人形の動きで細やかな感情を表現できるまでに上達します。見て

いる下級生も、夢中になって舞台に見入り、時には涙を浮かべて人形芝居のすばらしさに心を動かしています。来場した村の人たちや村内の高齢者の人たち

も盛んな拍手を送り、交流を深めています。子ども達は11月に行われる錦松会の定期公演にも出演し、練習の成果を大舞台上で披露します。

伝統芸能教室を通じ、高山村の子ども達は低学年の時から尻高人形を身近に体験しています。「自分たちも尻高人形を大切にしたい。高山のよいところをつないでいきたい」と、彼らの心に、高山村を愛する気持ち、伝統文化を大切に伝えていきたいという気持ちがふくらみます。「尻高人形」は、村に暮らす人々の心が世代を超えてつながる大切な伝統文化として継承され、村の誇りとなっています。



高山小学校伝統芸能教室



「尻高人形」定期公演に出演



高山小学校伝統芸能教室



旧三国街道の宿場として栄えた中山宿と、四方を山々に囲まれた高山村のロケーションを象徴する「道の駅・中山盆地」は、高山村の観光拠点として平成26年4月にオープンしました。

「道の駅・中山盆地」は村内の観光情報、地元産野菜などの自慢の味覚など、高山村の魅力を発信します。尖った屋根が特徴的な建物で、併設の天然日帰り温泉「ふれあいプラザ」、隣接する宿泊コテージと併せ、高山村の魅力が満喫できます。

昼間は雄大な三並山や美しい田園風景を、夜間は満点の星空を眺められます。また夏季には施設南側で話題の「田んぼアート」が楽しめます。5月に田植えを行い、7月頃が見ごろとなり、毎年どんなアートになるのかと人気となっています。

トイレは24時間使用でき、駐車場には電気自動車の急速充電スタンドが設置されており、「道の駅・中山盆地」でもっと高山村の魅力をたっぷり楽しんでください。



新鮮農産物・地元産加工品
農産物直売所では、四季折々の新鮮野菜や地元産果物を加工したジュース等を低価格で販売しています。

高山村の農産物・物産が満載

販売コーナーには、高山村の四季の味覚、採れたて新鮮な野菜が満載です。村のお母さんたちの手作り加工品も人気となっています。昼夜の寒暖差が大きい高山村で育った野菜や果物は、自然の甘みでとてもおいしいです。高山村の伝統野菜「高山きゅうり」は、地元限定の特産品です。

高山村のブランド米「月あかね」や無農薬・無肥料・天日干しの自然米も数量

道の駅

中山盆地

高山村の観光情報を紹介

観光ガイドカウンターでは、高山村のオススメ観光情報を案内しています。大好評の「中山盆地」記念切符や高山村方言の「たかやまことは手ぬぐい」も販売しています。県立ぐんま天文台の紹介コーナーでは、口径150cm望遠鏡の10分の1模型や説明パネルを展示しています。目にするこの少ない宇宙食など天文グッズも販売しており、おみやげに人気です。



観光ガイドカウンター
高山村の観光パンフレットが置いてあります。道の駅記念スタンプはここで押せます。

限定で販売しています。地元産のブルーベリーやプルーン、りんごを加工したジュースやジャム、アカシアとトチの完熟はちみつなど、高山村自慢の味をご賞味ください。

館内の「レストラン中山盆地」は、旬の地場産野菜をふんだんに使った高山村の農家レストランとして、道の駅を訪れる多くのお客様に利用されています。高山村と交流のある神奈川県藤沢市から直送された湘南の「しらす」をたっぷり使ったメニューも提供しています。



休憩スペース
山並みや田園風景を眺めていると、気持ちがほぐれていきます。ほっとひと息つける場所です。



露天風呂
週ごとの男女交替制ですので両方の景色、昼間は美しい山並み、夜は星空を眺めながら、心身ともに癒されます。

高山温泉ふれあいプラザ

高山温泉ふれあいプラザは、日帰り温泉施設です。大浴場には、高級感ある御影石使用の内風呂、石積みので豊かな景観が魅力の露天風呂が、週ごとに男女交替制となっています。露天風呂からは、昼間は広がる田園風景、夜は村自慢の星空がとてきれいに眺められ、寝湯でゆったりリラックスすることもできます。

館内レストランは食事、宴会で利用できます。隣接地には豊かな自然に囲まれた宿泊施設コテージがあります。

写真で観る 美しい高山村

夏

春



夏のたかやま高原牧場

新緑から夏本番まで、雄大な自然景観が広がる高原の景色が堪能できます。

名久田川と桜

どうどう淵を過ぎて、尻高地区を流れる川の脇には桜が綺麗に咲き、訪れた人の心を癒す風景がひろがります。



① 田んぼアート

色の異なる稲を使って水田に絵を描く。2009年から毎年続けています。

② 夏野菜

高山村の大地で育った高原野菜。

③ そば畑

そばの花が咲く季節になると、白い花が畑に広がります。

④ こんにゃく畑

村の特産品であるこんにゃくは、広大な敷地で作られています。



① 名久多教会と桜

明治20年（1887）の建築。県内に現存する教会中最も古い洋風建築物。

② たかやま高原牧場と桜

標高700mにある高原牧場。4月には桜、9月には女郎花（オミナエシ）が高原を彩ります。

③ ゴヨウツツジ

目通り1.30m、根元廻り1.50m、樹高5.80m。樹齢300年以上。小野子山山頂に近い標高1,100mの高所にあり、品種はヤシオツツジ。

④ 道祖神と水仙

村内にいくつも点在する道祖神は、道行く人々をやさしく見守ります。

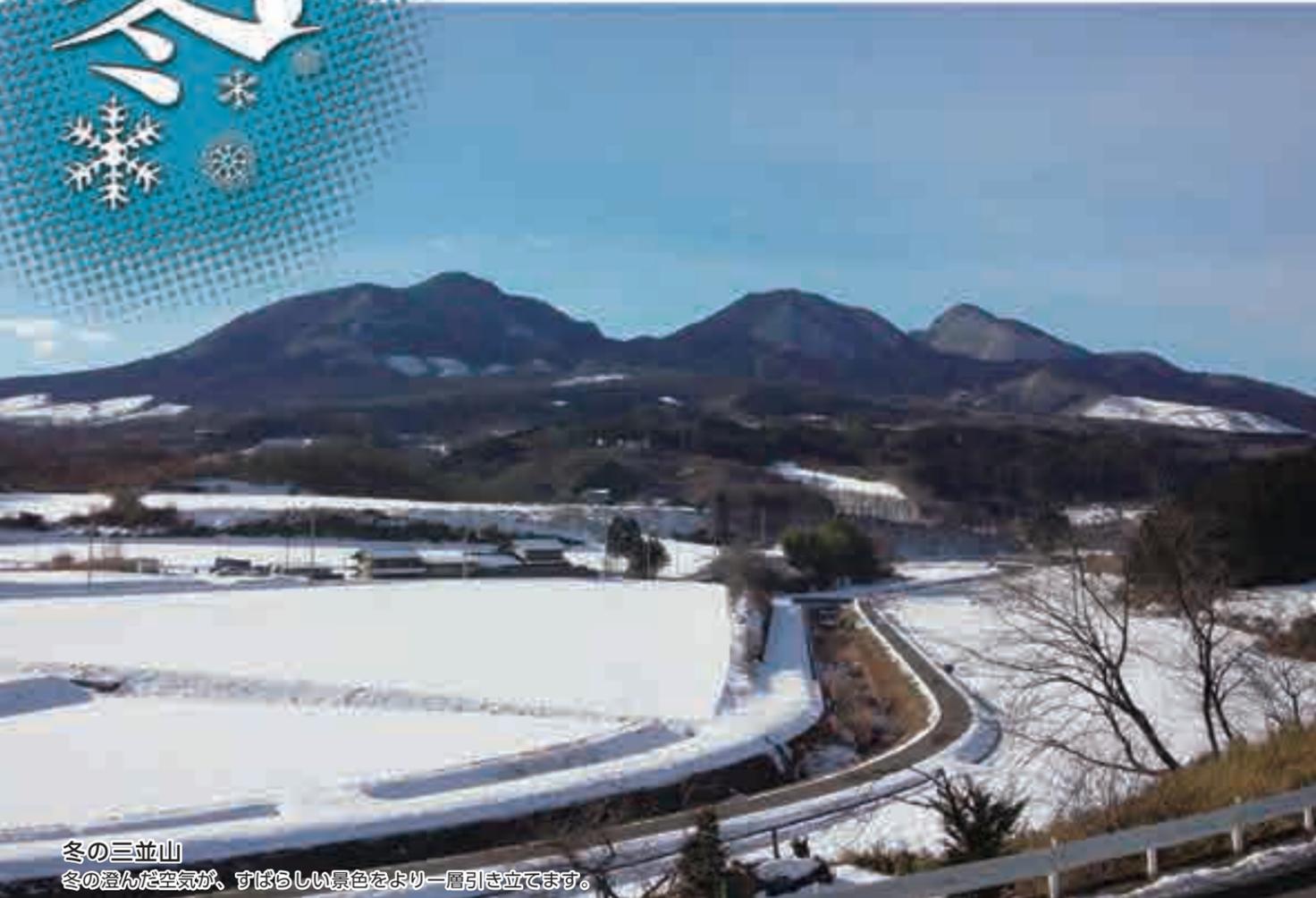


冬

写真で観る

美しい高山村

秋



冬の三並山
冬の澄んだ空気が、すばらしい景色をより一層引き立てます。



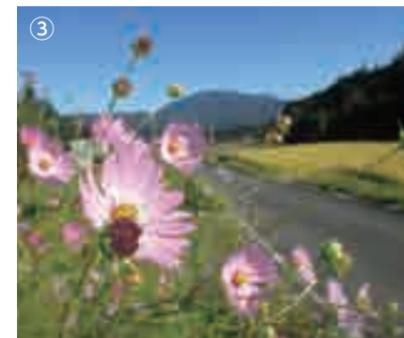
稲掛け「ハンデ掛け」
ハンデ掛けは、地域独特の「秋の田んぼ風景」です。



①金甲稲荷神社祭典
毎年2月11日には、各地区の稲荷神社において家内安全や五穀豊穡を願って祭典が行われます。
②干し柿
冬の冷たい空気に干された柿は、甘さが増します。
③どんどん焼き
1月中旬に各地区で無病息災を願いどんどん焼きが行われます。



①黄金色の稲穂
秋の夕焼けに、田んぼの稲が黄金に輝きます。
②秋の三並山
高山村の象徴として愛される三並山は秋の紅葉もすばらしいです。
③コスモス
道路沿いに咲くコスモスは、秋の高山村を彩ります。
④新田宿復活祭
秋の行事として定着した「復活祭」は、お囃子の音色が心に響きます。

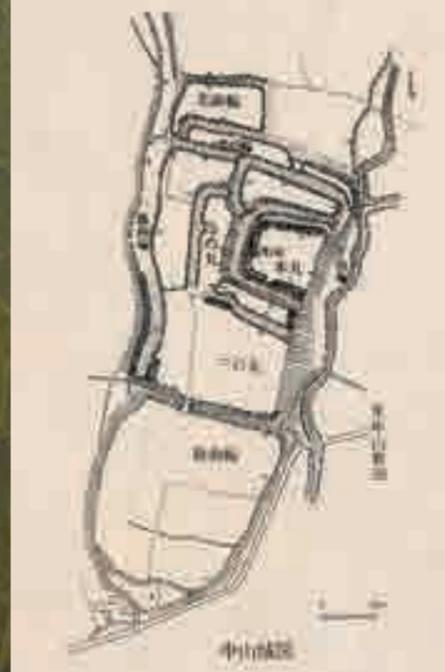


原風景をゆく

歴史の足跡

高山村を囲む山々は、太古からこの地で暮らす人々、訪れる人々を見つめてきました。日本最古の歌集「万葉集」の東歌に「赤見山草根刈り除け逢はずがへあそふ妹しあやに愛しも」と情熱的な恋が歌われました。赤見山は高山村を囲む北輪の山と考えられています。

高山村内の中山、尻高の地名は古くからあり、上杉、武田、真田氏など戦国武将の激しい攻防もこの地で繰り広げられました。江戸時代には三国街道の宿場として多くの往来で栄え、参勤交代の大名が宿泊する本陣も置かれました。



中山城址石宮

した。志を立てた塩原太助が愛馬「青」と惜別したと伝えられる「馬つなぎの松」も三国街道の金比羅峠に残っています。大正7年（1918）秋、全国を旅し、奥利根から信州に向かっていた歌人・若山牧水は権現峠で寝ころんで休んでいたところ雨に降られ、高山の里で暖かな宿をとりました。翌日、牧水は村を流れる名久田川のほとりで娘に話しかけ、遠く見える浅間山の名をたずねたということです。高山村には忘れられていた旅情と自然、時を積み重ねた歴史があふれています。

①中山城址
鎌倉時代初期に武蔵国児玉党の阿佐見実高が築城したもので、代々中山氏と称し、17代約380年、この地を治めました。



①中山城址

②尻高城址
古屋の要害城と並木の里城からなっています。築城は室町時代、応永8年（1401年）に白井城主長尾重国の三男重儀によって築られました。



②尻高城址

③三国街道の中山宿
三国街道は、江戸時代に大名や佐渡金山奉行の通路として栄えました。中山宿の本宿と新田の本陣跡は昔の面影を偲ぶことができます。



④塩原太助馬つなぎの松

④塩原太助馬つなぎの松
塩原太助が江戸の薪炭商に奉公に出るため、故郷新治村を出奔し金比羅峠まで来て、松の木に愛馬「青」をつないで別れを惜しんだと言われています。



③三国街道の中山宿

歴史と伝統が息づく村に
今が加わり、独自の時が刻まれる



星まつり



おぎよん



高山村ふるさと祭り



高山村ふるさと祭り

年間伝統行事

1月	中旬	各地区どんど焼き
	18日	厄除北向観世音祭典
2月	11日	金甲稲荷祭典
		北之谷稲荷祭典
	第4土曜日	星まつり
4月	1日	中山神社祭典
	中旬	尻高神社祭典
	15日	三島神社祭典
7月	下旬	各地区夏まつり
8月	14日	高山村ふるさと祭り
	下旬	役原獅子舞
9月	1日	中山神社祭典
	15日	三島神社祭典
		尻高神社祭典
10月	体育の日	高山村民運動会
11月	中旬	高山村文化祭
	23日	「尻高人形」定期公演
12月		名久多教会クリスマス会



役原獅子舞



三島神社の太々神楽



尻高神社の太々神楽

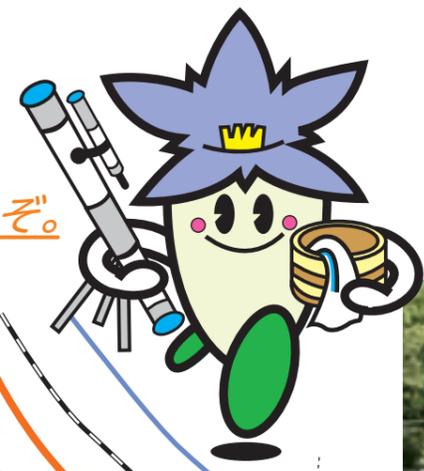


宿場町のにぎわいを伝える
新田宿復活祭
江戸と越後を結ぶ街道は、佐渡で産出された金を輸送する役割を担い、幕府の重要路線でした。最も距離の短い三国街道は古く往来が多く、慶長17年（1662）年に高山村の中山地区に中山宿が定められ、宿内の本宿と新田宿の2カ所が宿駅を担いました。参勤交代の大名や幕府公用役人が宿泊する本陣は、宿場の有力者名士が任じられ、風格の高い屋敷が整えられました。
新田宿の本陣は文政年間に焼失しましたが、参勤交代で利用していた長岡藩主らの寄進で再興、本陣跡の「平形家住宅門屋」に当時、そのままの書院が残っています。本宿本陣は大正時代に焼失、街道に面した門構えと裏庭は本陣の面影を偲ばせています。村では往時の賑わいを今に伝え、村の活性化につなげようと「旧三国街道新田宿復活祭」を開催、毎回地域の人々や観光客で賑わっています。

Takayama Map

● 高山村案内マップ ●

みずみずしい森の緑に囲まれて、
すがすがしい高原の風に吹かれて、
ほのぼのとした高山村めぐりへどうぞ。



関越ゴルフ倶楽部 中山コース



高山ゴルフ倶楽部



上毛森林カントリー倶楽部



ノーザンカントリークラブ上毛ゴルフ場



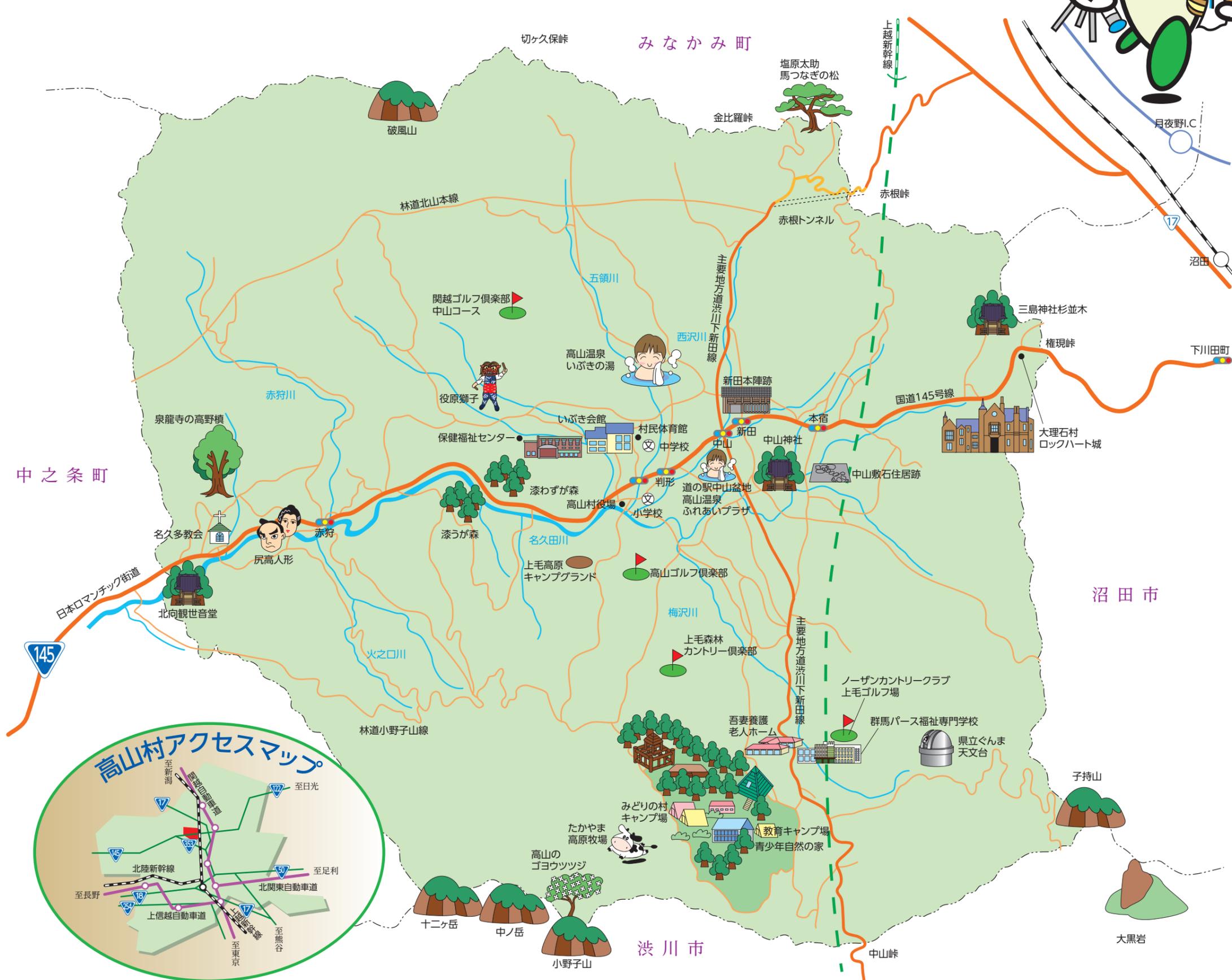
いぶき会館



保健福祉センター



北毛青少年自然の家



大理石村ロックハート城



道の駅「中山盆地」



高山温泉ふれあいプラザ



高山温泉いぶきの湯



県立ぐんま天文台



たかやま高原牧場



みどりの村キャンプ場

農林業を基幹に観光で活性化



農業

高山村は農林業を基幹産業に、観光立村に向けた取り組みに力を入れています。農業は、高山村の景観に配慮した経営基盤の整備を行い、米、野菜、村の花のりんどうのブランド化に取り組みほか、付加価値の高い6次産業化をめざし新たな特産品や商品開発を積極的に支援しています。

香りが良く柔らかくておいしい「高山きゅうり」は、高山村以外では手に入りにくい伝統野菜で、一般のきゅうりの3、4倍の大きさがあります。こうした高山村のおいしい農産物を生かし、官民協働の「たかやま村ベジブルグループ」を中心に地産地消メニューの普及を進め、平成26年度は群馬県初となる「関東農政局長賞」を受賞しました。地域の食材を生かし、学校、家庭、施設でライフステージを通じた食育と健康増進の活動に取り組んでいます。

森林は、良質な水を育む水源かん養、土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収・貯蔵する環境保全の機能を持ち、レクリエーションや教育の場、野生鳥獣の生息の場として適切な保全が求められています。高山村では、



村のがっこう はたけ組



こんにゃくいも

森林整備の現状と課題を踏まえ、望ましい豊かな森林を育てていくための指針として平成25年から10年間の森林整備計画を策定し、26年度に変更を行い、森林の機能の総合的な保全につとめています。

農業の担い手の減少、高齢化などの諸課題に向き合い、道の駅「中山盆地」と農林事業の連携により、体験型グリーンツーリズムによる交流促進をはかっています。道の駅、ぐんま天文台や村内の民間観光施設を拠点に、「高山モデル」の観光事業を創出し、村の活力強化をめざします。

自然と共に暮らすー生活環境の充実



浄化槽施設



河川工事

高山村は、緑豊かな山々にいだから、村の中央を名久田川が流れる高原地帯です。高山村には、美しい星空や農村の原風景が残されており、かけがえのない村の魅力となっています。

私たちの財産である豊かな自然と村の景観を保全しながら、調和のとれた発展をめざし、社会基盤の維持や環境衛生対策に力を入れています。合併浄化槽の設置や集落排水処理施設の整備を進め、環境の保全と循環型社会の実現に向け、村民と一体となった取り組みが着実な成果を上げています。

東日本大震災以降、防災に対する意識が高まり、集中豪雨、豪雪など自然災害にも備えた安心・安全なまちづくりが強く求められています。消防活動や地



消防団活動

域防災組織の強化、緊急物資の備蓄、防災行政無線の充実、防災知識の普及に努め、避難時の要配慮者など増加する災害弱者も視野に入れた自助、共助、公助の充実をはかっています。

少子高齢化が進行するなか、居住促進をはかり人口減少対策にも力を入れています。村民の誰もが生きがいを持って地域で暮らせるよう、自治会活動やボランティア活動で一人ひとりの力を発揮し、村民総参加の村づくりを進めています。

村の個性を生かした「高山村一貫教育」



幼稚園



小学校



中学校



食育

高山村では、一村一校園所の教育環境を生かし、村立幼稚園、保育園、小学校、中学校が連携した「高山村一貫教育」に取り組んでいます。発達段階、年齢に応じた学びと生活の目標を定め、学習、健康、あいさつ、安全など、子どもたちの主体的な活動を重点に、学校、家庭、地域が子どもたち一人ひとりを「明るく、かしこく、たくましく」育てています。高山村一貫教育では、豊かな体験や充実した教育・保育を通して、高山村の子どもたちが学ぶことの意味や楽しさ、人と関わることのすばらしさに気づき、学んだことを家庭や地域生活に生かせるよう取り組んでいます。

また時代の要請に応え、全教室に電子黒板を設置しデジタル教科書を導入するなど、ICT

（情報通信技術）を使った授業を取り入れています。

小学校では地域に伝わる「尻高人形」を体験する「伝統芸能教室」が行われ、子どもたちの豊かな心と郷土への愛情を育み、地域の歴史に理解を深める活動として評価されているほか、読書活動も全国表彰を受けています。中学生の海外派遣事業も国際理解と人材育成に成果を上げています。

住民の実情に合わせた重点施策



2歳児検診

高山村は、健康長寿の村づくりをめざし、各種がん検診、ご長寿健診、心の健康相談を実施しているほか、高齢者が長年住み慣れた地域で安心した生活を送れるよう、様々な高齢者福祉サービスを提供しています。在宅介護支援、自立支援、住宅のバリアフリー化工事の助成、ひとり暮らし高齢者の生活サポートなど、村の実情に合わせ安心して生活できる環境づくりを支援しています。

保護者と地域社会が一体となった子育てを理念に、保育所や児童館（学童保育）の運営や、子育てサロン、子育て支援センターでの遊びや相談・交流事業、保健センターでの健康相談などの支援を実施しており、子育て環境の充実をはかっています。

中学3年生、高校3年生にはインフルエンザ予防接種一部費用を助成しています。平成27年度からは保育園と幼稚園の長所を取り入れた認定こども園、地域子育て支援拠点の設置を計画しています。

診療所は地域住民の健康を支える中心的役割を担っており、広域医療圏と連携しながら、質の高い医療の確保をめざします。



子育て支援センター



2歳児歯科検診



高山村デイサービスセンター

「このホタルつかまえられるよ……」
「これは流れ星だよ！」

幼き頃の思い出がここにある

★星舞う故郷

あふくのやまをうらみまかせんかた

ぐんま
★高山村

高山村勢要覧

発行■2015年3月31日

群馬県吾妻郡高山村

企画■高山村役場地域振興課

URL●<http://vill.takayama.gunma.jp>

E-mail●info@vill.takayama.gunma.jp

印刷■荒瀬印刷株式会社